

<2025年10月4日>

イラクは OPEC+を完全無視の姿勢を鮮明にしています。過去の超過生産分を調整するどころか 2025 年末に 550 万 BD に引き上げる計画を石油相が発表しています。各 IOC との契約でも生産目標を引き上げており我が道を行くイラクです。

しかし OPEC 生産枠拡大でイラクは 9 月増産も枠以下とのロイター分析があります。イラクと他の 4 か国の枠増加は 8 月比 41.5 万 BD ですがイラク、クウェートおよび UAE は過去の超過分調整され OPEC5 カ国生産枠 34.7 万 BD で実際には 33 万 BD 増産との報道です。真偽は不明ですがもしそのとおりなら OPEC+生産枠拡大は過去の超過分調整の機能が生じると鈴木が週報や昭和ブックセミナーで述べたことが部分的に正しいことになります。どうなのか他機関の分析を待ちたいと思います。

北部輸出についてはトルコがすんなりと合意するかを鈴木は疑問視していましたが、イラクとトルコ間の原油 PL 搬送が再開したとトルコのエネルギー資源相が発表しました。北部輸出再開はクルド自治区で操業する米系企業に益でありかつトランプが求める原油価格低下にもつながるので米国が後押ししてきておりトルコにも働きかけたのかもしれませんが。米土の大統領会談のタイミングで PL 搬送再開が行われており、会談前に米国の働きかけでイラクとトルコで手打ちがあったのかも感じています。疑い深い鈴木はトルコが PL 搬送は合意したが港からの輸出に難癖付けないかいまだに疑っていますが (笑い)

トランプがロシア制裁措置を進める前に NATO 諸国はロシアからの化石燃料の輸入停止せよと述べたことに対し PL 経由で原油を輸入しているハンガリーが停止するわけなのでトランプは制裁する気がないと鈴木は週報で述べました。ハンガリー首相は EU 首脳会議で記者団に対し「米大統領は他国の主権を尊重しており、ただ状況を尋ねただけだ。これは重要な違いだ」と述べており、まさにその展開になっています。

ハマスの人質全員の解放で合意しトランプは「直ちに爆撃を停止し、人質を解放できるようにすべきだ」と SNS に投稿しています。20 項目のそれ以外は今後交渉が必要になるとの姿勢も武装解除は触れられずも従来と異なり条件を付けずに人質全員の解放に応じる用意を初めて示し恒久的停戦の要求すら含まれていません。ハマスが追い詰められている証左でしょうがハマスとイスラエルでトランプの感情的好悪を奪い合っている感もあります。

停戦前に破壊・殺戮しておこうということなのか、停戦が近づくと攻撃が激しくなるのがイスラエル軍の常でネタニヤフは交渉中も戦闘を続行としています。妥協はば連立の一部が反発する可能性もあり、ハマスが一本取ったのかもしれませんが。何はともあれ、ガザでの虐殺が停止することを祈念します。

<2025年10月11日>

WT I は週間で \$1.98 下落しました。金曜日に中国への関税賦課をトランプが警告したことで金融全面安となりました。久方ぶりのトランプ相場という感があります。最近市場はトランプの言動に反応しなくなっていました。ロシアに関しては制裁オオカミ少年の感があります。

「ウクライナがトマホークを何に使用するか知りたい」「それを問わなくてはならないだろう」とトランプが述べましたが、用途はロシア攻撃であることは明らかでそれをわざわざ問わなければならないと言うトランプの真意は何なのでしょう。トマホーク供与なら米ロ関係は破綻とのプーチン警告を受けてのものでしょうか？ EU 経由の供与検討は非同盟国への直接供与は米国内事情 (法律?) で支障があるのかもしれないその関係でしょうか？あるいは元々供与するつもりはなかったのでしょうか？

OPEC プラスが供給過剰懸念から増産幅わずかにとどめたと報じられています。サウジは競合する産油国から市場シェアを奪還するのを優先しているとも報じられていますが、サウジが競合する産油国とは非 OPEC+なのかあるいは OPEC+内部なのでしょう。サウジアラビアは、サウジ>イラク+イラン、を維持したいと以前鈴木は論文の中で述べたことがあります。今回の減産と緩和においてイラクは生産枠非順守でありイランは減産対象外で制裁の実質緩和で清算は増えてきています。上記不等式崩壊リスクをサウジが意識した可能性はあると思います。

OPEC プラス増産 8 月にはイラクの過剰生産で目標を 76 万 BD 上回りました。7 月まではイラクはすぐに増産できなかった、つまり緩和開始前には余剰生産能力がないほど生産していた証左です。8 月は増産が開始されたということでありクルド自治区との合意による増産もあって再び過剰生産に走りそうです

イスラエルとハマスがトランプ提案の停戦第一段階を合意しました。喜ばしいことですが、バイデン末期に米国も署名した停戦合意は第三段階まで規定されていました。ハマスはバイデン政権が説得しイスラエルは次期トランプ政権が説得したと鈴木は週報で述べ危うさを警告しました、案の定、トランプが大統領就任後、イスラエルは合意を無視しハマスや住民を虐殺し今日まで来て、ノーベル平和賞のタイミングでトランプが強引に停戦合意させました。

前回合意と今回合意の比較分析をメディアや専門家が論じていないか探していますが今のところ見当たりません。前回合意を報じた中東研ニューズレポート内容と今回合意を鈴木が比較してみたところ、相当イスラエルに有利に変わっているという印象です。前回は第二段階で人質全員解放でイスラエル軍完全撤退が述べられていましたが今回は第一段階で全員解放です。

<2025年10月18日>

「十分に血は流された。領土線引きは戦争と勇氣により定められている。彼らは今いる場所で止まるべき」とトランプはゼレンスキーとの面談後に SNS に投稿しました。先のアラスカ米露会談時にはトランプは現状実効支配境界線で停戦協定を考えていた、ロシアの進行を止めたぞと成果を誇れると思っていた節があると週報でも述べました。トランプはロが戦争継続ならトマホーク提供する可能性があるかと述べましたが開戦前までロシアが撤退しないとトマホークを供与するぞとは言っていなかったことからトランプの考えは変わっていなかったと言えるでしょう。に注目すべきです。

欧州やウクライナは戦争前の状態に戻して終結を念頭に置いており、ロシアは領土宣言をした州を完全支配してから終結を目指しておりかみ合おませんでした。ロシアは戦費枯渇してきたので現状維持の停戦に乗らざるを得ないと思われるハンガリーでの米露再会談に応じたのでしょうか。

インドはすでにロシア産石油輸入を半減と米WH当局者が述べました。10月は増量し11月積みの注文既に出され12月到着分も含まれています。上院からの制裁強化圧力をかわすための発言でしょうが、根拠のないことを平気で発言するトランプ病に WH 全体が侵されている事例であり嘆かわしいです。インド首相はロ産原油購入しないと約束したとトランプは語っていますがインドはやんわりと否定しています。WTI が 60 を切り多少原油価格引き上げになってもインドへ圧力をかけたほうがいいとトランプは判断したのでしょうか。あるいは自身を支持してくれた米国原油生産者から原油価格低すぎると文句を言われているからでしょうか。それともロシアへの圧力でしょうか。

ハマス合意不履行ならイスラエルの戦闘再開容認を検討とトランプは記者団に述べました。米軍の投入は必要ないともノーベル賞失敗で本性現したのでしょうか。前回週報でバイデン末期での合意と今回合意との比較を取り上げました。今回自身が停戦させたこと PR していますが、3段階合意までなされた前回合意をイスラエルが無視することにトランプは同意しそれどころかガザの米国管理まで言い出して戦闘を悪化させました。その間にガザ住民が大勢死亡イスラエル人質も生存者が減りました。メディアや研究者はこのことをもっと強調すべきと思います。

<2025年10月25日>

トランプが初めてロシア制裁に本気になり、「ウクライナでの戦争を終結させるための和平プロセスに対するロシアの真剣な取り組みの欠如」を理由にロシアの戦争遂行の資金獲得能力に打撃を与えるとロスネフチとルクオイルを標的にしました。トランプが本気になったのは停戦案にウクライナも欧州も靡いたのにロシアがいまだ合意をしないことに対して、俺がここまでしてやっているのにと怒ったからでしょう。現状支配線で停戦という当初からの考えにやっとウクライナや欧州が妥協してきたのでロシアにも妥協せよとの本気の働きかけを行ったということでしょう。

英仏独EUなどがトランプの現状の戦線での停戦案を支持するとウクライナと共同声明したこと、ゼレンスキーが「良い妥協案」と述べたことには驚きました。ロシアも財政難で苦しいがウクライナは戦士不足でもっと苦しいということでしょう。あるいは停戦しても制裁は継続し経済戦争により支配地を回復しようとしているのでしょうか。

プーチンが渋っているのは東部4州の領土化というアピールしてきたことが未達となることの国内向け説明ができないからではないでしょうか。多くの兵士を死なせて未達ということでは格好つけられないからではないでしょうか。あるいは国内の反響を様子見しているのかもしれませんが。

中印はトランプが本気と感じたためか露産原油輸入削減に動き出しました。これにより原油価格は反騰しました。このところ市場はトランプの言動にあまり反応しなくなっていたのですが、今回はトランプ相場復活です。なお前回の週報で米が精製稼働率下落で原油在庫が増加したのは夏冬製品規格変更に伴う在庫調整で今後調整される可能性が高い、と述べました。今回精製率上昇で原油在庫減少しており指摘は当たっていたと思われます。

イスラエルがガザ空爆、支援物資の搬入を停止しました。サウジ紙は米国仲介和平をテストするイスラエルと報道し他のアラブ国もイスラエル批判のトーンです。またイスラエルは西岸併合へ法的ステップに踏み出しました。これには米側もさすがに批判しています。空爆再開も西岸併合もイスラエルが米国を試している感があります。

